

## 「第2回 ジビエサミット」に参加して

伝統食から外食産業へ  
—有害捕獲から地域・産業資源としての捕獲への転換—

押田敏雄<sup>1</sup>・坂田亮一<sup>2</sup>

1 東京農業大学客員教授・麻布大学名誉教授 (Toshio Oshida)

2 麻布大学獣医学部 (Ryoichi Sakata)

農水省の2014年度の統計<sup>1)</sup>では、イノシシとシカによる農業被害額は120億円にも達しています。イノシシやシカをジビエとして利用することで、地方を創世し、資源に変えることを目的として「第1回日本ジビエサミット」が2015年2月に鳥取県で開催<sup>2)</sup>されました。

今回、昨年のサミットに続き、「第2回日本ジビエサミット」が福岡県で開催され、参加する機会を得たので、その概要について述べることにします。なお、関連行事として「全国ジビエ祭り in 福岡」も開催されたので、それについても触れてみます。

### 野生鳥獣による農業被害の実態

農水省のまとめ<sup>1)</sup>によると、2014年度の鳥獣による農作物被害は、被害総額が191億円で前年度に比べ7.8億円減少(3.9%減)、被害面積が81,200haで前年度に比べ2,200ha増加(2.8%増)、被害量が54.2万tで、前年度に比べ9.1万t減少(14.4%減)しています。

また主要な獣種別の被害金額については、シカが65億円で前年度に比べ10億円減少(13.6%減)、イノシシが55億円で前年度に比べ1,400万円減少(0.2%減)、サルが13億円で前年度に比べ800万円減少(0.7%減)しています。

一方、木の実の結実状況や気象の変化等が要因で、ヒヨドリが6.4億円で前年度に比べ3億円増加(85%増)、ネズミが7,600万円で前年度に比べ600万円増加(8.6%増)しましたが、全体的の被害金額は減少しています。つまり、鳥類(ヒヨドリ、カモ、ムクドリおよびハト)とネズミ以外については、鳥獣対策が功を奏してか、減少傾向が見られます。

### サミットの概要

今回のサミット(図1)は、特定非営利活動法人・日本ジビエ振興協議会が主催しました。また、農水省、厚労省、環境省、福岡県、全国農業協同組合中央会、全国農業協同組合連合会および在日フランス大使館が後援し、2016年2月11日～13日の日程で開催されました。

サミットは3つの大きな柱で構成されていました。第一は現地見学会とジビエ調理講習、第二は基調報告、そして第三は各種のセミナーでした。



図1 大会資料の表紙